

みどうの杜俳句会

落葉積み案ずる事の多かりき

佐山ケサ子

音たてて紅葉降り来る山日和

白石 礼子

植木場の晴れて一樹の紅葉立つ

吉田 愛子

秋晴れやゲートボールの玉飛ばす

梅澤きくえ

前山に鴉のしきりや空晴るる

田村 好子

色づきて地元みかんの味のよし

高橋 ツ子

山栗の割れたるままや未だ落ちず

木村 弘子

白菜のネットの中や巻きはじむ

鈴木 啓子

鉢植ゑの父の好みしサルビアよ

飯野はつ志

庭の柚子粒の揃ひて落つるまま

落合 七郎

サルビアの元気な花へ笑み寄せて

今村千鶴子

満天星紅葉朝の日の当たる杜の道

西 ツル

一週毎ずらし大首大根蒔く

小宮 勉

朝日射す冬菜畑の青さかな

関口 侑子

いわし雲牧空高く流れけり

野口利江子

靴のかかと磨り減り歩行冬うらら

岡部富美子

梔子の花は実となりなほ香る

鯨井 和枝

川岸に鶯舞ひ降りて初紅葉

土屋 厚子

冬蕨触るれば胞子飛びにけり

初雁 功子

霜柱さがす子ら居て今朝の庭

神田 昌美

鎌柄の葉も実も真紅雨上がる

山田 美子

茎固く枯色となる箒草

大竹 裕也



人権シリーズ

399

『競争と共創の学校教育を目指して』

私がこの東秩父村で勤務させていただき、今年度で六年目になる。多くの児童とふれあい、年齢層の異なる同僚たちと過ごし、充実した教員生活を送ることができている。ある研修で、東秩父村の子どもたち（村の宝）について、他の地域の教員と意見交流をした時のことである。村の宝である子どもたちは、心が豊かで学習に取り組む姿勢が大変すばらしいと感じられるが、人と競うこと（競争心）はどうだろうか疑問に思ったのである。

一般的に、競争とは「あることについて、互いに優劣や勝ち負けを競う」と言われるが、近頃の子どもは一番に興味がなかったり、百点をとれなくていいと思っていたりする子が増えているそうである。そうなるってしまう大きな要因は何だろうか。具体的なステップの積み上げが足りないか、もしくはモチベーションが低いか……。子どもたちは、一人一人好きなことや得意なこと等、価値観が異なる。そのため、学校では、それぞれの得意なことを尊重したり、互いに認め合ったりする中で自己有用感を高めるための工夫をしている。そこで、私が大切にしていることは、主体的に相手にかかわり「すごいね」「いいね」等の肯定的な言葉がけである。私が担当している体育の教科では、特にこの点を態度の基礎基本としている。

東秩父村の子どもたち（村の宝）が、この先、多様な立場の人と対話しながら、ともに新しい価値観を生み出すことができるよう日々、子どもたちと向き合っていきたいと考えている。

東秩父村立槻川小学校教諭 田川 竜也

東秩父村教育委員会開催のお知らせ

日時 1月25日（水）午後1時30分～
場所 役場2階新会議室
問合せ 教育委員会事務局 ☎82-1230

